

未来へつなぐこの人

三原を愛する人たち INTERVIEW

プロデューサーとして、真剣に考えるのはやっぱり「まちづくり」なんです

三原の芸術環境に大きく貢献する三原市芸術文化センター「ホボロ」。三原発の画期的なイベントを多数企画されている。作田館長にお伺いしました。

僕がいつも考えているのは、ただ単に、クラシックや上品な舞台をやれば民度が上がるんじゃないとか、そういう安易な事ではなくてね。「音楽の学校」の動機になったと考えていうのは「まちづくり」なんです。

坂本龍一氏による「音楽の学校」が大盛況でした。ただ音楽を聴くだけではない企画です。

企画・構成をされた小沼純一さんの著作が先日出版されましたが、この三原での「音楽の学校」を執筆の動機の一つとしておられます。NHKでも放送されますし、様々な良い反響があったと思います。

音楽や舞台芸術を地方で鑑賞する場合、都会で作られたものをただ与えられて、有名人を見に行くとか、東京で流行っているからとか、テレビで有名だからとか、そういった文化の需要の形が変わりつつあるのではないのでしょうか。

はいけない。独裁恐怖政治でも、モンスター市民でもなく、一つの調和が必要になってきます。調和について皆で勉強して、根本から考えて、良いまちを作っていくかなければなりません。

今後のビジョンはいかがでしょう。

音楽の学校はまた企画したいと思っています。坂本龍一さんに限らず。それにまちづくりの関連では、弱い立場の方、マイノリティに対するあたたかい目線というものを考えていきたい。三原に国際音楽祭をつくる計画があるのですが、そこでは目の見えないピアニストや、耳の聞こえないマリリン演奏者、ハンディキャップを持っているながら、それを克服して一流のプロになった人。そういう方々をお呼びして、皆さんと一緒に、彼らの声と演奏に耳を傾けたい。ホボロの施設や道路アクセスなども含めて、より良いまちづくりを考える契機になるはずですよ。



作田 忠司 Tadashi Sakuda キャリアが45年にもなる音楽プロデューサーである。クラシック業界での人脈と、文化人等との幅広い交流は、ホボロの事業企画に存分に生かされている。

明日への記録

高校生記者の目録 photoalbum

高校生の方々に、三原日和記者としての活躍が始まりました！このコーナーでは、彼らが自分たちの目録で三原のさまざまなイベント、人、場所などを取材し、写真と記事で表現していきます。第一弾となる今回は、カメラを手に三原最大の祭り「やっさ祭り」を取材。こちらの写真はすべて高校生記者の撮影によるものです。初取材の手ごたえはどうだったかな？



photo by Hakumai



photo by Munehira



photo by Kuramoto



photo by Akiyama



photo by Fujii



photo by Nagai



第1期高校生記者たち

伝統の熱いやっさ祭りを取材に行きました



特別提携 株式会社八天堂

高校生記者たちの初の感想

今回、私たちは初めて取材のためにやっさ祭りに行きました。会場に着くまで「ちゃんと撮れるのかな？記事を書くための取材は出来るのかな？」と不安でした。祭りはいっぱいの人でした。実際、人が多くてその中で撮影していましたが、あまり上手く撮れなかったと思います。暗くなるにつれて撮影条件も難しくなったりして。でも、この祭りでたくさん笑顔に出会い、撮影させてもらいました。初めての事だったので難しかったけれど、また来年も取材に行きたいな。

「10代の若者にとってやっさ祭りをどう思う？」

- ・伝統のある祭りなのでもっとにぎやかになればいいな
・もっと多くのチームが出場してほしい
・衣装とか髪が派手になっているので現代的な演出は？
・ステージをもっと盛り上げて踊り以外のイベントでももっと人が集まる祭りになればいいな
・地元の人たちがつながって団結する事が必要

写真展紙飛行機 vol.5 I, WILL 土居写場. フジグラン三原店1F中央広場にて 2012年8月28日(火)~9月2日(日)まで開催中. とびっきり笑顔ととびっきり愛情. こんなにもたくさんの「愛」が込められている事を感じてもらいたい!!!

Senior glasses for you. シニアグラスはいかがでしょう? 『老眼は誰もがなる目の老化現象です』. 残暑が厳しい季節が続いています。夏の紫外線はお肌だけでなく、目にも負担をかけています。日差しが強い時はサングラス等で目を守りましょう。

三原の医療・介護・福祉特定医療法人 仁康会小泉病院は「広島県精神科救急医療施設指定病院」です。

広島県では、緊急に医療を必要とする精神に障害のある方に対し、迅速かつ、適正な医療の確保を図るために、年間を通じて24時間体制で精神科救急医療システムを運営しています。小泉病院は広島県精神科救急医療システムの精神科救急医療施設に指定され、保健所等との連携の下、広島県東部地区の精神科救急に三原病院、福山友愛病院と共に積極的取り組みを行っています。

施設利用に関するお問い合わせは

小泉病院 「精神科救急担当」0848-66-3355

特定医療法人仁康会 三原市小泉町 4245 番地 0848-66-3355

精神科救急の場合とは

電車の中で急に心臓が止まりそうな恐怖からられる、娘が手首をカミソリで切って出血、おじさんが夜中に突然大暴れ、引きこもりがちだった息子が訳のわからないことを叫びだす。精神科救急とは、例えば、こんな状況です。自分がそうなる事もあれば、家族や友達がそうなることもあります。

どこで診察されるのか

指定された病院に自家用車やタクシーで行ける場合は問題はありませんが、混乱がひどい場合や、本人が受診を拒否するよう場合には、搬送手段が問題となります。

どうやって運ぶか 救急搬送手段

指定された病院に自家用車やタクシーで行ける場合は問題はありませんが、混乱がひどい場合や、本人が受診を拒否するよう場合には、搬送手段が問題となります。

どこで診察されるのか

かかりつけの病院のない限り、どの病院で診察されるのかは、地域や日時によって異なります。通常は都道府県が精神科救急医療体制整備事業の中で指定する当番病院が救急医療にあたります。

どんな治療がなされるのか

軽症の場合は、応急処置として精神安定剤を飲むか注射するかして帰宅し、後日あらためて受診するように指示されます。



新病棟も進行中です

※参考資料 厚生労働省 e-ヘルスネットによる

三原日和 mihara bi-yo-ri. 地域のこと紹介しちゃう. 若い方からシニアの方まで、読んで楽しく、暮らしに役立つ紙面を作りたい。

若い方からシニアの方まで、読んで楽しく、暮らしに役立つ紙面を作りたい。企業広告だけでなく、頑張っている人、まちのイベント等にもスポットをあてていきたい。そして、三原をもっと明るく、住みやすく、連帯感のあるまちにしたい。

身につける絆、供養のカタチ 『ソウルジュエリー』のご紹介. ライフスタイルの多様化によってお墓や供養に対する考え方や価値観もさまざまになっています。自宅に仏壇がなかったり、お墓参りが難しかったりといった遺族の思いをかなえるのが『手元供養』です。

園児募集 昭和 私立幼稚園 昭和中 入園受付開始のお知らせ. 平成24年9月3日(月) 8:00~ ※定員になり次第締め切らせていただきます。

瀬戸田からのメッセージ 大理石彫刻庭園・未来心の丘. 耕三寺境内の後方にそびえる未来心の丘をご存知でしょうか？約3000トンの大理石で造られた庭園には大型モニュメントが並び、見る人を驚かすとともに、遠く南欧を連想させてくれます。

秋のフルーツ狩り. 一年を通して旬な果実を味わってほしい...と様々な果樹を栽培されている「果実の森」。現在、真夏の太陽を存分に浴びた糖度たっぷりの梨とぶどうが旬を迎えています。

大の庭日和 #06 大きな屋根がグッド！快適カーライフ空間. コンニチハ大です。今日はとっても機能的なガレージのご紹介です。車を運転されるご家族が増え、駐車場を増設されたリフォームですが、この大きな屋根がポイント。